ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E112J020	美学・美術史概論 (Seminar in Aesthetics and Art History)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	2	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫	前期	火2	日本語	英語	単独

担当教員	氏名　荻野　哉 E-mail　　内線
授業の概要	「美学」とは近代の西洋で成立した、美・芸術・感性を主要なテーマとする哲学です。本概論では、「美術（史）／芸術／アート」をめぐるさまざまな考察を軸として、この学問にせまります。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	美学および美術史学の意義について、哲学的・歴史的な視点から説明できる。	○					○	
目標2	「芸術／アート」をめぐる言説について、現代アートの動向と関連させながら説明できる。	○	○					
目標3	目標3　「美術／芸術」の概念の変遷について、西洋の美術作品や著作を挙げながら説明できる。	○	○					
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	4	3				3	

授業の内容	
1	イントロダクション：「美学」と「美術史」
2	デュシャン《泉》とウォーホル
3	近代「芸術」の終焉
4	「芸術／アート」をめぐる言説
5	西洋の美学（古代）
6	西洋の美学（中世）
7	ルネサンスの思想
8	《モナ・リザ》をめぐって
9	ヴァザーリの「ディセーニョの術」
10	「美しい芸術」の成立
11	「精神の美学」の内実
12	これまでの復習、および期末レポートの説明
13	天才と趣味
14	「美術／芸術」の用語法（日本）
15	まとめ：哲学としての美学

アクティブラーニング					
	A:知識の定着・確認	○	コメントシート（授業中に記入）と小レポート（課題として作成）を、それぞれ複数回提出してもらいます。	その他の工夫	期末レポートを作成する際の注意事項について、資料を配布のうえ説明します。Moodleも活用する予定です。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	配布資料や参考書を読み、予習する（10h）。美学・美術史をめぐる問題を見つけ、分析する（10h）。
	事後学修	配布資料や参考書を用いて復習する（10h）。講義で学んだことを活かし、小レポート・期末レポートの完成度を高める（15h）。
	想定時間合計	45

教科書	教科書は指定しません。授業中に配布するプリントを使用します。
参考書	佐々木健一『美学への招待　増補版』中公新書、2019年、ISBN9784121917416

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	第１回の小レポート	20%		○	○							
	第２回の小レポート	20%	○		○							
	期末レポート	60%	○	○	○							

注意事項	「美学」と「美術史」の違いを常に認識しながら授業にのぞんでください。
備考	
リンク	
URL	